

授業改善等に関する報告書（2022年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2022 (前期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
グレートブックスセミナー1	犬塚 潤一郎	哲学のテキストは、論理的思考を養うための最上の手段です。そしてそれ以上に、人間と社会の問題を、本質から考える姿勢を養ってくれます。皆さんがそれを経験し、ご自身の成長を実感されたことを喜んでいきます。
グレートブックスセミナー2 b	犬塚 潤一郎	基礎のスケールを広げるために、各テキストへの踏み込みは一定程度にとどまらざるを得ませんでした。古典は今後、またそこへ戻る機会があるはずですので、その際には独力で深められますように。
コミュニティ経済演習	上野 亮	<p>本授業ではICTを活用した、地域コミュニティの課題解決とそれにまつわる経済活動の関係を焦点を当て、SNS(ソーシャルメディア)、オープンデータ、クラウドファンディングという、3つのテーマについて、それぞれ講義→調査→検討→報告のサイクルを回して、授業を進めてきました。</p> <p>授業評価の結果としては、理解度と満足度、どちらも全体平均に対し、少し評価が低めでした(理解度:全体平均79.1%に対し76.4%。満足度:全体平均4.34に対し3.89)。今年度、着任し、初めて担当する授業であったため、私自身としても、履修者の興味関心の度合い、この授業を履修するまでの学修状況への理解が不足しており、結果として、授業難易度を少し高く設定してしまったのが要因と考えています。来年度の授業に関しては、授業資料の見直し等により、より分かりやすく説明するように努めたいと思います。一方、成長を実感したことに関しては、グループワークやプレゼンに関すること以外にも、地域の課題解決策、ICTの地域活用例について学べたといった回答がありました。そのため、概ね授業の到達目標は達成できたかと考えています。</p> <p>また、一部の自由記述欄の内容(要望)について、私の考えも記しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けの際、メンバーが重なっているところが多い→グループに関しては、基本はランダムで割り振っていますが、履修者数が20名のため、ある程度の重複は仕方ないと考えています。来年度の授業に関しては、あまりに同じメンバーばかりになるなら、意図的に調整をしたいと思います。 ・授業資料を印刷配布してほしい→この授業ではノートパソコン持参を前提としているのに加え、紙や印刷コストも節約すべきと考えているため、今後も資料の印刷配布は予定していません。ただし、履修者が個人で印刷持参できるように、来年度の授業に関しては、もう少し、資料公開のタイミングは早めたいと思います。 <p>ソーシャルメディアやクラウドファンディングの活用という、華やかな部分に目を向けられがちですが、本授業で扱ってきたように、実際には地域の抱える課題解決に活用されるケースも出てきています。今後は、ICTは工夫次第で身近な課題解決にも活用できるという点にも着目してもらえればと思います。</p>
ゼミナール	河井 延晃	<p>本授業は3年生のゼミとなります。</p> <p>本授業は回答者がなしとなっています。ゼミ中の最後に告知しましたが、5限授業ということもあり終了時間が遅かったこともあり、失念されたのかもかもしれません。</p> <p>これまで経験したことがなかったことですが、今後の改善策としては、ゼミ時間最初などに十分な時間をとって、回答を確認してゼミを終えるなど、回答率を上げるように努めたいと思います。</p>
ゼミナール	犬塚 潤一郎	前期は学術方法修得における基礎の段階ですが、学びを楽しまれたことをうれしくおもいます。
ゼミナール	行実 洋一	授業中の教員の声はやや聞き取りづらかったという声が寄せられている。新型コロナウイルスの感染予防のため、ゼミでありながら大教室で行ったことも一因と思われるので、今後授業形態について再考し改善したい。
ゼミナール	須賀 由紀子	後期も頑張っていきましょう。
ゼミナール	倉持 一	ゼミの狙いなどは概ね達成されたと思います。

[2022 (前期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
ビジネス特論 a (環境ビジネス)	菅野 元行	履修生39名中11名の方々に回答していただき(回答率28%)、総合的な満足度が4.91(5.00が最高点)となりました。昨年度と比べて回答率(29%)は同様でしたが、総合的な満足度は昨年度の値(4.70)よりも高い評価が得られました。 自由記述欄にも記載していただいた方々に御礼申し上げます。その一部を掲載します。「環境についての理解が深まった」「環境問題への対策として、政治や社会の面から考える力が身についた。」「環境問題について詳しく知りたいと感じた。」「環境の内容について自分で考えまとめることができた。」「環境問題について今後対策をしなければ地球はどうなってしまうのか、今後の私たちの行動によって未来が決まることなど事の深刻さに対する理解が深まりました。」「環境ビジネスに関する知識について学んだことでニュースの内容などの理解を深めることができたと思います。」「環境問題における対策について、政治や社会の面から考えるきっかけになりました。また、まちづくりや生活においても環境問題を解決する糸口があるのではないかと考えるようにもなりました。」「今まで知らなかったことを学ぶことができた授業だったので良かったです。」「今後も気候変動対策や生物多様性などの難しい環境問題を分かりやすく伝えることに励みます。
ビジネス特論 b (地域ビジネス)	倉持 一	授業満足度や成長実感も比較的に高い評価だと思いますので、基本的には現在の授業内容を維持しつつ、地域ビジネスの新たな課題などをアップデートしていくことで、ビジネスが地域の自立にいかに関与できるのか、また、しているのかなどを理解できるような内容にしていく方針です。
フィールドリサーチ a	上野 亮	今年度、初めて担当した授業ではありますが、配布資料の分かりやすさや満足度に関しては十分な評価を得たと認識しております。理解度や自身での成績評価が少し低めですが、今後の成長のためにも、授業中には良いところの評価だけでなく、それなりの指摘も行ってきただけが影響しているのかと考えています。ただし、成長を実感したことは、データの活用、パワーポイントを利用した資料の作成や発表という回答もあり、本授業の目的を達成出来たと考えています。 今回の授業では、授業を通じて、地域への理解を深めてもらう意味でも、日野キャンパスのある日野市を含む、南多摩地区をケーススタディとしました。大学のある地域であり、我々にとっても身近な地域になるので、地域の実情を理解出来たことには大きな意味があると思います。 また、本授業で学修してきた、定量的なデータに基づく分析、それを補足するための文献調査、調査内容に関する効果的な報告(プレゼンテーション)方法といったことは、本授業に留まらず、様々な場面で必要な能力になります。本授業で学修してきた成果に関しては、ぜひ、他の授業を含め、今後の学生生活に活かしてください。
プロジェクト実践演習 a	須賀 由紀子 合原 勝之	モノやコトを創っていくプロセスをいろいろな形で学修していただく機会になったかと思います。授業で学んだことをもとに、表現することを楽しんでいただければと思います。
メディアコミュニケーション a	行実 洋一	全体的に高い評価を得ることができたが、相対的に教員の声の聞き取りづらさ、双方向性の点で少し点数を下げていたので、両者の点について今後改善に取り組みたい。
メディアプロデュース論演習	行実 洋一	双方向性という点でやや点数が低かったので、演習授業であることも配慮して、よりその点の向上・改善に努めたい。
メディア経営論	犬塚 潤一郎	都市をメディアとしてとらえる見方・理論を、実際に適用してみる。応用がまだ難しかったようですが、経験したことが次の認識を深めると、期待します。
メディア社会概論	行実 洋一	全体的に高い評価を得ることができたが、学生自身の成長実感がもう一つという面が見られた。1年の入門的授業ということもあり、その点の改善に今後努めたい。
ライフ・プランニング	犬塚 潤一郎	とりあげる対象と視点は一樣ではなく、また分析と考察に毎回取り組むのは大変だったと思いますが、応じて成長も確かに認められました。それぞれに自覚もあると思います。
映像制作演習 a	犬塚 潤一郎	制作技術の繊細さを知り、楽しさを実感されたことをうれしく思います。

[2022 (前期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
応用メディア技術	河井 延晃	<p>本授業（応用メディア技術）は、2年生以上対象の選択科目でした。以下、アンケート結果の動向と改善について報告します。</p> <p>まず、シラバスの内容と一致（4.58）、担当教員の声の聞き取りやすさ（4.50）、双方向授業の工夫（4.58）、板書やパワーポイントのわかりやすさ（4.58）などについては、それぞれ全体平均、学科平均を超えています。しかし、各回の授業スピードは適切だったか（4.25（学科平均4.43））と、この授業での自分の成績をつけるとしたら（3.67（学科平均3.80））が、平均値をやや下回っています。</p> <p>本授業は演習授業ですが、テキストは座学授業にも耐えられるような「情報デザイン」に関する内容でした。その結果として、内容がやや他の科目より多かったかもしれません（いわゆる「反転学習」と「演習授業」を組み合わせたものでした）。その一方で、欠席せず参加された「履修学生の最終成績」は悪いものではなかったように思います。むしろ勤勉な学生が多かったようにおもいます。</p> <p>この傾向から、最後の発表会だけでなく、授業の途中途中で、もう少しはげましたり、自信を高めるようなやりとり（フィードバック）を増やすことが一案として考えられます。また、ほぼ最終週ギリギリまで課題制作などをおこなっており、アンケート回答の時期では自分自身の評価に自信が持てないこともあったかもしれません。最終回の発表会では個別コメントをしていますが、それに至る企画書などについても報告会でコメントを入れることで、学生の自己評価が上がることを期待できます。</p> <p>なお、他の科目と顕著な点として、予習復習時間が1.84時間（学科平均、1.04h）となっていること、自分自身の成長の実感（4.83（学科平均4.27））、この分野をさらに学びたいと思ったか（4.75（学科平均4.09））となっており、これらは、授業そのものの評価と言うよりは、意欲的な学生と教員の間関係によってこの高い評価になっていると言えるのではないのでしょうか。内容がテキストも演習も多い授業でしたが、2年次以降の専門授業として次年度も上記を踏まえて改善していきたいと思います。</p>
家庭経営 a（食生活）	奈良 典子	<p>貴重な意見有難うございました。 今後も皆さんに学んでいただけるようにつとめます</p>
環境の化学と工学	菅野 元行	<p>履修生17名中8名の方々に回答していただき（回答率47%）、回答率は昨年度（38%）より高くなりました。昨年度よりも充実した授業内容にすることができましたが、総合的な満足度が4.75（5.00が最高点）となり、昨年度の値（4.60）よりも増加しました。</p> <p>自由記述欄にも記載していただいた方々に御礼申し上げます。その一部を掲載します。「原発について理解が深まりました。また、映像を通して理解を深めることが出来ました。」「原子力による被害を学ぶことができました。特に、福島第一原発など実際に起きた事例を挙げられていたため、より理解することができました。」「環境汚染の問題を、以前よりも詳しく知ることができました。」「原子力発電などに関する細かい知識を得ることができました。プラスチックごみの問題からは、自分の生活に関連付けて考えるようになった。」「環境について深く知りたいと感じるようになった。」「授業のペースや説明がとても良く、分かりやすかったです。また中盤で映像を見ることによって、さらに理解を深めることができました。」「環境についての知識が深まり、より興味を持つことができました。プラスチックごみ問題等、自分の生活と環境が密着していることも実感し、生活スタイルの改善が環境問題の解決に繋がっていくのではないかと考えるようになりました。」「今後も原発やプラスチックリサイクルなどの難しけれども大切な環境問題を分かりやすく伝えることに励みます。</p>
環境マーケティング論 a	犬塚 潤一郎	<p>従来（産業社会期）の構造とは異なる事業構造が育ちつつある現在について、米国および欧州の事例研究成果から学ばれたことを、この国の現実に重ね合わせてみる、その知的経験を、まだ入り口ですが、得られたことともいえます。</p>
環境マーケティング論 b	倉持 一	<p>マーケティング論そのものは商品の開発やプロモーションに直結する分野であり、学生の興味も集めやすいテーマですが、近年、企業は環境マーケティングを積極的に展開しており、その重要性だけでなく困難性を学ぶことが極めて重要です。比較的履修者が多くなかったこともあり、双方向のやり取りで授業内容をフォローできたことが奏功したと思います。</p>

[2022 (前期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
環境科学概論	菅野 元行	<p>履修生62名中37名の方々に回答していただき（回答率60%）、総合的な満足度が4.57（5.00が最高点）となりました。昨年度に比べて内容をさらに充実できたものの、回答率（昨年度71%）は減少し、総合的な満足度（昨年度4.56）は微増に留まりました。</p> <p>自由記述欄に多くの方に記載していただき、回答していただいた方々に御礼申し上げます。自由記述から一部を掲載します。「現在の環境問題についての基礎的知識が身についた。」「授業内容をまとめる力が身についた。」「復習する習慣が身についた。」「課題を通して理解が深まった。」「環境について曖昧な知識しか持っていなかったけど、基礎的な知識を身につけることができた。」「環境について意識していなかったことを身近に感じながら学習を進めることができました。化学は得意分野ではなかったのですが、理解を深められたと思います。」「環境のことに全く興味なかったが、興味を持つことができた。」「環境問題の現状や原因などを知ることが出来ました。」「さまざまな現象の仕組みについての理解を深めることができた。」「地球と環境についての理解が深まった」「環境問題についての知識が増え、環境問題対策についての考え方により真実味が増しました。」「ごみやプラスチックの環境への影響を知り、分別や配慮をしっかりとやろうと思えました。」「</p> <p>「環境について詳しく学ぶことができました。授業資料も漫画や新聞記事が添付されていて良かったです。ありがとうございました。」「地球に興味があり、地球温暖化が悪化しないようにするために自分にできることは積極的に取り組んでいきたい。」「理科が苦手ということもあり、授業についていけない不安でしたが、毎回の授業を聞くのがとても楽しみになっていました。」「難しい話だけでなく、面白い話も交えながらの授業でとても楽しく受講することができました。ありがとうございました。」「地球に生きるものとして知っておくべきことを学べてよかったです。」「理系科目が苦手だったため、授業の内容を理解できるかや課題に取り組む際に躓いてしまうのではないかと不安に思うことがありました。しかし、新聞や図、写真など理解しやすい資料や言葉での説明が毎回丁寧で、課題についても国語力や表現力が重要となる方法であったので、不安だった要素は関係がなく、しっかりと取り組んだことが目に見えて点数化されていたため、抵抗感なく授業を受けることができとても楽しかったです。また、質問にも丁寧に回答をいただけたことも嬉しかったです。ありがとうございました。」「その他のコメントもすべて拝見しました。ありがとうございました。今後も分かりやすい授業を心がけます。</p>
環境経済学	倉持 一	<p>環境経済学は人間の合理性を軸に環境問題を分析することで、環境問題の原因を理解すると同時に解決に向けて何が求められるのかを理解することが重要です。そうした点について、複数の学生が「自らの行動を変えるきっかけとなった」と回答していることから、この授業の目的が概ね達成できていると判断します。</p>
環境思想 b	犬塚 潤一郎	<p>伝統的な人間社会の中の問題から、人間と社会を取り巻く自然環境へと、範囲を広げて取り組む、今日の環境倫理は、課題自体さえまだ十分に明らかになっていませんが、同時に私たちの現実はそれを必要としています。理論を道具として、実践の場に適用する努力を期待します。</p>
現代社会を読み解く a（政治と経済）	倉持 一	<p>選択必修科目ということで、履修者のスタンスは様々ということもあり、主に環境問題を政治と経済の観点から複合的に考察していくという内容は、簡単ではなかったと思います。しかし、テストの解答などを見ますと概ね設問に適切に対応していることから、多くの学生は、現代社会を複合的に考察するという授業目的に達するレベルにあとと判断しています。</p>
現代社会を読み解く b（生活と産業）	須賀 由紀子 倉持 一	<p>暮らしや産業、企業のことについて、新しいものの見方や発見の多い授業となったようでよかったです。これからも自分の興味を広げて学んでいってください。</p>
自立生活論 a（健康）	須賀 由紀子	<p>健康な暮らしについての視点を得ていただけてよかったです。授業で得たことを、ぜひ実践してみてください。</p>
自立生活論 b（消費者）	倉持 一	<p>私たちは全員が消費者としての側面を持ち、何気なく行動をしています。その点を学術的に理解すること、そして、消費が社会とどのような関係を有しているのかを理解することを優先して授業を構成しました。後半の消費と社会は、自らを俯瞰的に捉える必要があるため難しさを感じたかもしれませんが、この部分を、いかに理解しやすくしていくかが課題だと認識しました。</p>
女性社会論 a	須賀 由紀子	<p>授業で取りあげたことを参考に、これからのご自身の生き方を幅広い視点から捉えてみていただければ幸いです。</p>

[2022（前期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
少子高齢化社会	須賀 由紀子	少子高齢化社会の現状、根本課題についてしっかりと捉え、またその改善策についても具体的に考えていただくことができ、充実した学びとなった様子が伺えてほっとしました。身近な社会課題として、ぜひ問題意識を持ち続け、また、何か小さなアクションを自分なりに試みていただければと思います。
生活産業創出論	須賀 由紀子	暮らしを取り巻く産業について視野が広がる授業となったようでよかったです。本授業をきっかけに身近な商品やサービスに日ごろから目を向けるよう試みていただけるとよいと思います。